

検討事項

1 生物多様性保全に配慮した遊歩道整備の内容

(課題)

- 人力により危険木を処理することが出来ない箇所については重機によって処理しなければならないが、重機が通行できる管理道がないため、生態系に配慮した仮設道等の作設方法を検討する必要がある。

(事務局案)

- 本年度の危険木の処理はCFで実施し、冬期間、重機が道道又は林道から雪を締固めながら林内に進入しかかり木を処理する。
- 来年度以降については、継続的にかかり木を処理するため、林内に管理道を作設することがベストと考えるが、そのためには、道路敷地周辺の「動植物等の環境調査」や「保安林内行為申請」、「土地の形質変更申請」が必要となる。

また、その場合でも、歩道に平行した管理道の作設は困難であり、道道または林道からの進入路程度の道路となることから、管理道と遊歩道の接点から処理するかかり木まで距離がある場合は、生態系に配慮するため冬期間の処理にならざるを得ない。

- 一部遊歩道に敷設されている木道、木製階段、案内標識等が腐食しており、補修又は新設する必要があることから、実施箇所を選定する必要がある。

(事務局案)

- 本年度の整備については、見晴台コースの木道の補修等を既存予算で実施するとともに、同コースの一部の木製階段の補修等をCFで実施する。
- 本年度のCFで実施するその他の整備については、木道、木製階段の新設は特に考えていないが、各歩道の起終点に簡易な路線図等の設置を検討する。

2 多様な自然環境に係る魅力を体験するツアーの内容

(課題)

- 生物多様性に配慮しながら来訪者にチミケップ湖周辺の自然の魅力を十分に知ってもらうような、体験ツアーを実施する必要がある。

(事務局案)

春(5月~6月)・・・自然観察会

遊歩道(セラピーロード)を利用し、春の野草、野鳥の観察会を実施する。

夏(7月~9月)・・・自然体験キャンプ

チミケップ湖のキャンプ場を活用し、釣り、カヌー体験を実施。

冬（2月～3月）・・・歩くスキー体験

西湖畔コースとチミケップ湖、野鳥コースを結ぶ、極寒歩くスキー体験。

- なおCFの返礼品として実施する体験ツアーについては、平成30年度の春に実施する自然観察会とする。
- 道職員だけではなく地域の自然に詳しい専門家の協力や民間企業が実施する観光商品との連携などについて検討する必要がある。

（事務局案）

- 平成30年度の体験ツアー（春の自然観察会）については、道職員（東部森林室）が中心となり、地元の自然に詳しい専門家の方々の協力を得ながら、津別町や観光協会の支援もいただいて実施する。
- その後の体験ツアーを継続して実施するため、津別町観光協会や民間企業、自然に詳しい専門家等が連携して、チミケップ湖とその周辺を活用した観光プロジェクトを立案し、ツアーを企画する。

3 生物多様性保全に配慮した観光利用のあり方

（課題）

- クラウドファンディングなどにより地域の良さが広く認められることにより、予想以上に来訪者が増加した場合には、生物多様性や原生林の静けさなどのメリットが損なわれる可能性がある。

（事務局案）

個人及びツアー客に対する何らかの規制は必要と考える。

- ツアー人数を制限し、大型バスでの乗り込みについての規制。
- エンジン付きボートなどは特に鳥類などの繁殖時期には規制する方法を検討。
- 整備した遊歩道を利用した長期的なエリアの活用方法について、地域関係者の合意のもとで方向性を決めていく必要がある。

（事務局案）

チミケップ湖とその周辺の地域を含めた活用方法について、地域関係者等で構成する協議会の設置について検討する。

4 保全経費の確保など継続的に利用できる仕組み

(課題)

- 今年度実施するクラウドファンディング（寄付型）では、ある程度のまとまった予算の確保が期待できるとともに広報活動を通じて寄付者を含めて来訪者が増加し地域の活性化に繋がる事が期待できる一方で、継続的に実施していく場合には寄付者が多い年度と少ない年度とがあり安定した予算額の確保が難しい。

(事務局案)

- 今回は、道によるクラウドファンディングでの取組であるが、今後は、限られた道予算での執行のほか、民間企業等も含めた津別町全体としても財源確保に取り組み、安定財源を確保した上でツアー客の集客を図る必要がある。